

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 藤井 俊之			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		独書講読 II									
【授業の概要・目的】											
Adorno, Theodor W.: Gesellschaft.(1965) In: Gesammelte Schriften. Bd. 8, Frankfurt am Main 2003, S. 9-19. を読む。											
人間の歴史は共同体の成立とともに始まる。神話や物語形式に託して世界の成り立ちを語ろうとする人々の行為は、社会がその構成員である個々人を媒体にして自らの記憶を時間の継起のなかで伝達しようとする試みであり、歴史もまたそうした営みから生じた。しかし、歴史が社会の記憶であるとして、それによって自己の同一性を確立する社会の正体を、歴史を読み解くことで理解できるだろうか。そもそも、社会の記憶として成立した歴史とは、「社会が自分自身について語る」という自己言及の試みであり、その意味で社会の客観的な記述ではありえない。つまり、歴史を語ることの困難は、社会が自らを省みることの困難に起因するのだと言える。授業で取り上げるアドルノの論文「社会Gesellschaft」は、ナチスを体験した第二次大戦後のドイツで書かれたものであり、まさに上で述べた社会の自己省察の可能性を問うている。この点を踏まえ、本論文の精読を通じては、社会を構成する個人の意味についても考えたい。											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は15回全てを読解にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。